

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校では、「自主 協調 勤勉 努力」の校訓に基づき、教育活動を行っている。

特色としては、学習規律を保ち、自他を尊重する態度を身に付け、生徒一人一人が主体性を持ち、自立を目指した集団育成に力を入れて教育活動に取り組んでいる。そして、その効果が徐々にあらわれている。

現状としては、生徒の学習態度は概ね良好であるが、家庭における学習習慣が十分定着しておらず、学習の定着度に二極化傾向が見られる。学校行事や部活動には意欲的に取り組むが、地域行事やボランティア活動への参加が少ない。教職員はベテラン教師と若手教員の年齢構成において二極化が見られ、組織的な授業改善を推進する校内体制の構築が、やや不十分である。保護者・地域は学校運営や教育活動に協力的であり、学校行事の見学や保護者説明会等の参加状況は漸次増加している。

課題としては、わかる授業や個に応じたきめ細やかな指導に努めるとともに、読解力の向上と探求心を持たせるために、体験的で問題解決的な学習の充実を図り、学習意欲を向上させることである。また、自己肯定感を高める道徳教育や人権教育の推進、夢や目標を持って励ませる進路指導の充実、生徒に寄り添いつつ集団を育成する生活指導の充実を偏ることなく組み合わせることにより、いじめの未然防止や不登校の早期発見につなげることである。さらに、一人一人を大切に特別支援教育の充実と工夫、健康・体力・運動への関心を高める指導や食育の推進、小中一貫した教育の充実と地域に開かれた学校づくりの推進等に取り組むことである。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○令和7年度の生徒アンケートにおける「学校の規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上にする。

【R5:94.5% R6:98.2% R7:98.0%】

○平成4年度～令和7年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を100%にする。【R4:100% R5:100% R6:100% R7:100%】

○令和7年度末の生徒アンケートにおける「係や当番の仕事をすすんでしている」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。

【R5:90.7% R6:91.1% R7:93.3%】

○令和7年度末の保護者アンケートにおける「学校は積極的に保護者や地域に情報発信を行っている」と答える保護者の割合を70%以上にする。【R5:94.5% R6:91.3% R7:86.9%】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和7年度の全国学力・学習状況調査における知識に関する問題の正答数が全国平均の7割に満たない生徒の割合を令和4年度より3%向上させる。

【R4:国語 17.6%、数学 32.2%、理科 33.1%】

【R7:国語 % 数学 %】

○令和7年度の中学校チャレンジテストにおける対府平均比を、令和4年度より向上させる。

【R4:3年 1.04】【R6:3年 1.00】【R7:3年 0.94】

○令和7年度の全国学力・学習状況調査における「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）」の項目について「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を令和4年度より向上させる。

【R4:48.6% R6:50.6% R7:52.2%（校内調査）】

○令和7年度における授業アンケートで「授業がわかりやすい」と答える生徒の割合を全体の80%以上にする。【R5:75.6% R6:83.8% R7:87.7%】

○令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各学年の合計得点を、令和4年度より3ポイント向上させる。【R4:41.78pt R6:46.24pt R7:47.27pt】

○生徒アンケートにおける「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない（あまり食べていない）」と答えた生徒の割合を毎年、前年度より減少させ、令和7年度調査において5%以下にする。【R5:7.6% R6:8.6% R7:8.4%】

○令和7年度末の生徒アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を70%以上にする。【R5:89.1% R6:90.2% R7:92.4%】

○令和7年度末の生徒アンケートにおける「部活動に積極的に参加している」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。

【R5:74.3% R6:77.7% R7:79.5%】

【学びを支える教育環境の充実】

○令和7年度の授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする（ただし、事務局が定める学校行事等、ICT活用が適さない日数を除く）。

【R5:0% R6:0.7% R7:11.8%(12月現在)】

○令和7年度末の生徒アンケートにおける「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を70%以上にする。【R5:57.9% R6:56.7% R7:55.8%】

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心の教育の推進】

○令和7年度末の校内調査において、「いじめは、どんな理由であってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を86%以上にする。

【R6:84.8% R7:86.7%】

○令和7年度末の校内調査において、不登校在籍比率を前年度より減少させる。

【R6:8.3% R7:8.2%】

○令和7年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合(改善生徒/継続不登校生)を増加させる。【R6:0.25 R7:0.27】

○令和7年度末の生徒アンケートにおける「学校の規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を99%以上にする

【R6:98.2% R7:98.0%】

○令和7年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を100%にする。【R6:100% R7:100%】

○令和7年度末の生徒アンケートにおける「係や当番の仕事をすすんでしている」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を92%以上にする。

【R6:91.1% R7:93.3%】

○令和7年度末の保護者アンケートにおける「学校は積極的に保護者や地域に情報発信を行っている」と答える保護者の割合を92%以上にする。【R6:91.3% R7:86.9%】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和7年度末の生徒アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を35%以上にする。【R6:33.7% R7:36.5%】

○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。

現3年生	1年時 (R5)	2年時 (R6)	3年時 (R7)	現2年生	1年時 (R6)
国語	0.97	1.01	0.97	国語	1.05
数学	0.99	0.88	0.96	数学	1.07

○大阪市英語力調査におけるCEFR A1 レベル総統以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を59%以上にする。【R6:52.9% R7:58.8%】

○令和7年度末の生徒アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか」に対して、最も肯定的な「すき」と回答する生徒の割合を55%以上にする。
【R6:51.6% R7:55.6%】

○令和7年度の全国学力・学習状況調査における正答率を府平均よりも向上させる。
【R6:国語0.98 数学0.93】 【R7:国語0.98 数学0.85】

○令和7年度の中学校チャレンジテストにおける対府平均比を、令和6年度より向上させる。

3年	国語	社会	数学	理科	英語
R6	1.01	1.03	0.98	1.02	0.96
R7	0.97	0.93	0.96	0.87	0.94

○令和7年度末の生徒アンケートで「家で自分で計画を立てて勉強している」の項目について「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を昨年度より向上させる。
【R6:50.6% R7:52.2%】

○令和7年度末における授業アンケートで「授業がわかりやすい」の項目について、肯定的回答の生徒の割合を全体の85%以上にする。【R6:83.8% R7:87.7%】

○令和7年度末の生徒アンケートで「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない（あまり食べていない）」と答えた生徒の割合を5%以下にする。【R6:8.6% R7:8.4%】

○令和7年度末の生徒アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気を付けている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を91%以上にする。【R6:90.2% R7:92.4%】

○令和7年度末の生徒アンケートにおける「部活動に積極的に参加している」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。
【R6:77.7% R7:79.5%】

【学びを支える教育環境の充実】

- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を47%以上にする。【R6:46.2% R7:44.2% (12月現在)】
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を73%以上にする。
【R6:72.1% R7:70.0% (12月末現在)】
- 令和7年度の授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする（ただし、事務局が定める学校行事等、ICT活用が適さない日数を除く）。
【R6:0.7% R7:11.8%(12月現在)】
- 令和7年度末の生徒アンケートにおける「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を70%以上にする。【R6:56.7% R7:55.8%】

3 本年度の自己評価結果の総括（最終評価）

「自主 協調 勤勉 努力」の校訓を原点として、「読解力を高め、自ら考え行動し、探求心を持ち、協働できる生徒の育成を図る」を学校園の組織目標として、教育実践を図った。

【安心・安全の教育の推進】

「時を守り 場を清め 礼を正す」ことに留意し、学習規律を高め、自立を目指した集団作りを進めてきた。それにより、年間をとおして学習規律を維持することができ、規範意識については高い水準を保つことができた。

いじめについては、未然防止・早期発見・早期対応に心がけた。発生時はその都度指導し、保護者への啓発も繰り返してきた。近年、SNSのトラブルが年々増加傾向にあり、事実確認と証拠保全の難しさにより、解決が長引く傾向が強かった。引き続き、情報モラル教育の徹底とSNSが絡むいじめ事案における指導方針の明確化に取り組んでいく必要がある。

不登校については、ここ数年8%台で横ばい傾向にある。引き続き、小学校から聞き取りを十分に行うとともに、生徒本人と保護者に寄り添う気持ちを高めながら、集団生活や学校生活に楽しさや幸せがあることをアピールしていく。その中で、区役所・地域の方による登校支援、区役所と連携しての校内の支援教室、外部のフリースクール等の活用の幅が広がり、救われている生徒も増えている。この周りの支えをプラスに転じて、不登校減少に向け、一丸となって引き続き取り組んでいく。また、生徒の自尊感情を育む集団づくりを意識し、不登校の未然防止として「不登校の生まない学校づくり」に努めていく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

対話を取り入れた、ICT機器活用によるわかりやすい授業展開は増加している。引き続き、一斉授業スタイルからペア学習や班学習スタイルの取入れ、主体的で対話的な深い学びの実践を進めていく。

けれども、今年度については、全国学力・学習状況調査の結果では、国語・数学ともに府平均を下回った。令和7年度の中学校チャレンジテスト（3年）において、府平均と比較すると、5教科とも下回った。国語・数学の経年比較において、国語は横ばい、数学は低下した。

家庭学習においては、宿題や復習ができていない生徒も多いが、宿題未提出生徒も少なくなく、本人及び家庭への啓発が必要である。学習用端末の家庭への持ち帰りをさらに進め、学習アプリを積極的に活用することで、家庭学習の充実を図っていく。また、学びサポーターや学校元気アップ地域本部と連携し、放課後の学習会を充実させ、学力向上に支援を要する子どもに対しても、学習習慣や基礎学力の定着を図る。

健康に関心を持つ生徒は増加し、給食前の手洗いうがいは徹底されている。

部活動については、おおむね積極的に参加し、夏・秋の大会・コンクールで好成績を収めた。

【学びを支える教育環境の充実】

「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合は、昨年度より低い数値となった。年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合は、昨年度と同程度の数値である。教員の一人当たりの平均時間外勤務時間は、昨年度より4時間程度改善されているので、引き続き、校務の効率化、地域の人材の積極的活用を進めていく。

授業での学習者用端末の利用は、その活用の研修やICT支援員のサポートもあり、確実に増加した。

年間一度以上の研究授業は、それぞれの教員の創意工夫で内容の濃いものが多々見られ、ICT機器の活用、一斉外の授業スタイルも多く見られる。11月中旬には、若手教員主催による研究授業を実施した。その際、講師であるスクールアドバイザーから次期学習指導要領を見据えた指導・助言をいただき、それを用いた授業展開を意識できるようになってきている。

「心の天気」活用については、飛躍的に向上した。命・いじめなど生徒の状況把握に不可欠であり、重要なアンテナツールとなるため、引き続き、積極的な活用を進めていく。

図書室の活用は、支援スタッフの皆様、生徒専門委員会の活動のおかげで、頻繁に利用する生徒もいる。貸出冊数などまだまだ利用価値は高いので、引き続き、啓発活動を進めていく。

地域の皆様には「元気アップだより」の発行や、サポートスタッフとして様々な分野で支援していただいた。引き続き、積極的にコミュニケーションを図りながら、チームの仲間意識を育てたい。

大阪市立茨田北中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心の教育の推進】</p> <p>○令和7年度末の校内調査において、「いじめは、どんな理由であってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を86%以上にする。 【R6:84.8% R7:86.7%】</p> <p>○令和7年度末の校内調査において、不登校在籍比率を前年度より減少させる。 【R6:8.3% R7:8.2%】</p> <p>○令和7年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合(改善生徒/継続不登校生)を増加させる。【R6:0.25 R7:0.27】</p> <p>○令和7年度末の生徒アンケートにおける「学校の規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を99%以上にする 【R6:98.2% R7:98.0%】</p> <p>○令和7年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を100%にする。【R6:100% R7:100%】</p> <p>○令和7年度末の生徒アンケートにおける「係や当番の仕事をすすんでしている」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を92%以上にする。 【R6:91.1% R7:93.3%】</p> <p>○令和7年度末の保護者アンケートにおける「学校は積極的に保護者や地域に情報発信を行っている」と答える保護者の割合を92%以上にする。【R6:91.3% R7:86.9%】</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>学習規律を維持するため、「時を守り 場を清め 礼を正す」ことに留意して集団育成し、挨拶運動や清掃活動、遅刻防止のためのチャイム着席等の取組を生徒会・委員会活動の一環として取組む。</p> <p>指標</p> <p>年間をとおして学習規律を維持する取組を行い、生徒アンケート等により検証する。 令和7年度末の生徒アンケートにおける「チャイムが鳴ったら、すぐに授業が受けられるように準備している。」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を84%以上にする。【R6:83.6% R7:85.9%】</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>いじめを未然に防止し、不登校への早期対応を図るための取組を行う。</p> <p>指標</p> <p>毎学期1回以上いじめアンケートを実施と、日常的な生徒観察で状況把握および指導に当たる。また、いじめ対策委員会・虐待防止委員会を毎月開催する。必要に応じてケース会議を招集する。年間2回の教育相談により生徒に寄り添うとともに、不登校についての</p>	B

<p>校内研修会を行う。学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を100%にする。【R6:100% R7:100%】</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】 自尊感情を高め、規範意識を醸成するため、道徳教育や人権教育、国際理解教育等の取組を進める。加えて一人一人を大切に特別支援教育の充実と工夫を図る。</p> <p>指標 各学級とも年間35時間の道徳の授業を実施する。また、道徳の授業力を向上させる研究授業を実施する。各学年とも発達段階に応じた性教育を実施する。 令和7年度末の生徒アンケートにおける「学校の規則を守っている。」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を99%以上にする。 【R6:98.2% R7:98.0%】</p>	B
<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】 自らの将来について考えさせるとともに、正しい職業観を養わせ、夢や希望をもって生きることができるようキャリア教育の充実に努める。</p> <p>指標 1年生で職業講話、2年生で職場体験またはそれに代わる体験活動、3年生で高校体験授業という系統立てた取組を実施する。 令和7年度末の生徒アンケートにおける「将来の夢や目標を持っている。」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を68%以上にする。 【R6:66.9% R7:70.7%】</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析</p>	
<p>「時を守り 場を清め 礼を正す」ことに留意し、学習規律を高め、自立を目指した集団作りを進めてきた。それにより、年間をととして学習規律を維持することができ、規範意識については高い水準を保つことができた。</p> <p>いじめについては、未然防止・早期発見・早期対応に心がけた。発生時はその都度指導し、保護者への啓発も繰り返してきた。近年、SNSのトラブルが年々増加傾向にあり、事実確認と証拠保全の難しさにより、解決が長引く傾向が強かった。引き続き、情報モラル教育の徹底とSNSが絡むいじめ事案における指導方針の明確化に取り組んでいく必要がある。</p> <p>不登校については、ここ数年8%台で横ばい傾向にある。引き続き、小学校から聞き取りを十分に行うとともに、生徒本人と保護者に寄り添う気持ちを高めながら、集団生活や学校生活に楽しさや幸せがあることをアピールしていく。その中で、区役所・地域の方による登校支援、区役所と連携しての校内の支援教室、外部のフリースクール等の活用の幅が広がり、救われている生徒も増えている。この周りの支えをプラスに転じて、不登校減少に向け、一丸となって引き続き取り組んでいく。また、生徒の自尊感情を育む集団づくりを意識し、不登校の未然防止として「不登校の生まない学校づくり」に努めていく。</p> <p>各学年道徳の時間の確保に努め、教科書を使用して計画に沿った授業を行うことができた。道徳・人権教育委員会では、各学年の進捗状況や授業内容を共有し、話し合うことができた。学級での仲間づくりや学校行事、学年行事の取り組みを通して、思いやりの心を育てることに努めた。</p> <p>1年生で職業講話、2年生で職場体験、3年生で高校体験授業を実施し、キャリア教育の充実に努めた。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・「心の天気」「相談機能」の積極的活用をととして、担任だけでなく、学年で確認・共有し、トラブルの未然防止に努める。 ・いじめの未然防止・早期発見・早期解決を図るため、子どもがSOSを発信しやすい環境と日常的な生徒観察による状況把握及び指導に当たれる環境の実現、日々の教育活動の中での「子どもに寄り添 	

う指導」を推進していく。

- 学校教育活動全体を通して、お互いを思いやり、尊重し、生命や人権を大切にすることを育成し、友情の尊さや信頼の醸成、生きることの素晴らしさや喜び等についての指導の充実を図るため、道徳教育、人権教育を充実する。また、奉仕活動、自然体験等の体験活動をはじめ、人間関係や生活経験を豊かなものとする教育活動を取り入れる。
- 不登校の未然防止として「不登校の生まない学校づくり」に努める。そのために、児童生徒の「自己成長感」「自己効力感」「自己有用感」「自己存在感」「自己肯定感」といった自尊感情を育む集団づくりに努める。また、不登校の早期発見・解決を図るため、日常的な生徒観察による状況把握及び相談しやすい環境の実現、日々の教育活動中での「子どもに寄り添う指導」を推進する。
- スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー、こどもサポートネットを活用し、家庭との更なる連携を図りながら、児童生徒の支援ニーズを的確に把握する。
- 区役所をはじめ、こども青少年局や教育支援センター、また、民間フリースクール等、学校内外の関係機関とも連携を図り、教育の機会を確保する。

大阪市立茨田北中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況																																				
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○令和7年度末の生徒アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を35%以上にする。【R6:33.7% R7:36.5%】</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的の比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>現3年生</td> <td>1年時 (R5)</td> <td>2年時 (R6)</td> <td>3年時 (R7)</td> <td>現2年生</td> <td>1年時 (R6)</td> </tr> <tr> <td>国語</td> <td>0.97</td> <td>1.01</td> <td>0.97</td> <td>国語</td> <td>1.05</td> </tr> <tr> <td>数学</td> <td>0.99</td> <td>0.88</td> <td>0.96</td> <td>数学</td> <td>1.07</td> </tr> </table> <p>○大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル総統以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を59%以上にする。【R6:52.9% R7:58.8%】</p> <p>○令和7年度末の生徒アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか」に対して、最も肯定的な「すき」と回答する生徒の割合を55%以上にする。【R6:51.6% R7:55.6%】</p> <p>○令和7年度の全国学力・学習状況調査における正答率を府平均よりも向上させる。 【R6:国語0.98 数学0.93】【R7:国語0.98 数学0.85】</p> <p>○令和7年度の中学校チャレンジテストにおける対府平均比を、令和6年度より向上させる。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>3年</td> <td>国語</td> <td>社会</td> <td>数学</td> <td>理科</td> <td>英語</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>1.01</td> <td>1.03</td> <td>0.98</td> <td>1.02</td> <td>0.96</td> </tr> <tr> <td>R7</td> <td>0.97</td> <td>0.93</td> <td>0.96</td> <td>0.87</td> <td>0.94</td> </tr> </table> <p>○令和7年度末の生徒アンケートで「家で自分で計画を立てて勉強している」の項目について「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を昨年度より向上させる。 【R6:50.6% R7:52.2%】</p> <p>○令和7年度末における授業アンケートで「授業がわかりやすい」の項目について、肯定的回答の生徒の割合を全体の85%以上にする。【R6:83.8% R7:87.7%】</p> <p>○令和7年度末の生徒アンケートで「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない（あまり食べていない）」と答えた生徒の割合を5%以下にする。【R6:8.6% R7:8.4%】</p> <p>○令和7年度末の生徒アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気を付けている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を91%以上にする。【R6:90.2% R7:92.4%】</p> <p>○令和7年度末の生徒アンケートにおける「部活動に積極的に参加している」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。【R6:77.7% R7:79.5%】</p>	現3年生	1年時 (R5)	2年時 (R6)	3年時 (R7)	現2年生	1年時 (R6)	国語	0.97	1.01	0.97	国語	1.05	数学	0.99	0.88	0.96	数学	1.07	3年	国語	社会	数学	理科	英語	R6	1.01	1.03	0.98	1.02	0.96	R7	0.97	0.93	0.96	0.87	0.94	B
現3年生	1年時 (R5)	2年時 (R6)	3年時 (R7)	現2年生	1年時 (R6)																																
国語	0.97	1.01	0.97	国語	1.05																																
数学	0.99	0.88	0.96	数学	1.07																																
3年	国語	社会	数学	理科	英語																																
R6	1.01	1.03	0.98	1.02	0.96																																
R7	0.97	0.93	0.96	0.87	0.94																																

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の増加】 わかりやすい授業、個に応じたきめ細かな指導の充実に努める。また、体験的、問題解決的な学習を取り入れ、生徒の学習に対する意欲や関心を引き出し、自主的・意欲的に取組もうとする態度を育てる。</p> <hr/> <p>指標 主体的・対話的で深い学びやICTの効果的な活用等を取り入れた授業を推進する。全教員による研究授業と相互授業参観、公開授業と研究協議会等を実施し組織的な授業改善を推進する。 令和7年度末の生徒アンケートにおける「学校の授業はわかりやすく楽しくて、満足している。」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を85%以上にする。【R6:83.8% R7:87.7%】</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の増加】 本校生徒の課題である家庭学習習慣を定着させるための取組を推進する。</p> <hr/> <p>指標 各教科の授業で復習を主とした家庭学習のための課題を与える。また、学校元気アップ支援員と連携し、生徒が自由に活用できる自主学習プリントを作成する。 令和7年度末の生徒アンケートにおける「1日平均1～2時間、家で勉強している。」と答える生徒の割合を前年度より向上させる。【R6:32.7% R7:38.5%】</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】 自らの健康に関心を持ち、体力の向上に対する意欲を育てるための取組について、食育を含めて推進する。</p> <hr/> <p>指標 保健体育指導や部活動の充実、生徒による保健委員会を活性化させ、その活動を中心とした生徒の意識の向上を図る。 令和7年度末の生徒アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を91%以上にする。【R6:90.2% R7:92.4%】 令和7年度末の生徒アンケートにおける「部活動に積極的に参加している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。【R6:77.7% R7:79.5%】</p>	B
年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析	
<p>対話を取り入れた、ICT機器活用によるわかりやすい授業展開は増加している。引き続き、一斉授業スタイルからペア学習や班学習スタイルの取入れ、主体的で対話的な深い学びの実践を進めていく。</p> <p>けれども、今年度については、全国学力・学習状況調査の結果では、国語・数学ともに府平均を下回った。令和7年度の中学校チャレンジテスト(3年)において、府平均と比較すると、5教科とも下回った。国語・数学の経年比較において、国語は横ばい、数学は低下した。</p> <p>家庭学習においては、宿題や復習ができていない生徒も多いが、宿題未提出生徒も少なくなく、本人及び家庭への啓発が必要である。学習用端末の家庭への持ち帰りをさらに進め、学習アプリを積極的に活用することで、家庭学習の充実に努めていく。</p> <p>コロナ禍以降、健康に関心を持つ生徒は増加し、給食前の手洗いうがいは徹底されている。部活動については、おおむね積極的に参加し、その結果、大会・コンクールで好成績を収めた。</p>	

次年度への改善点

- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善・研究授業の実施を通して、教員の指導力を向上に努める。
- ・学びサポーターや学校元気アップ地域本部と連携し、放課後の学習会を充実させ、学力向上に支援を要する子どもに対しても、学習習慣や基礎学力の定着を図る。

大阪市立茨田北中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を47%以上にする。【R6:46.2% R7:44.2%（12月現在）】</p> <p>○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を73%以上にする。 【R6:70.0%（12月末日現在）】</p> <p>○令和7年度の授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする（ただし、事務局が定める学校行事等、ICT活用が適さない日数を除く）。【R6:0.7% R7:11.8%（12月現在）】</p> <p>○令和7年度末の生徒アンケートにおける「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を70%以上にする。【R6:56.7% R7:55.8%】</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）】 ICT機器を日常的に活用することで授業を主に、学びを支える教育活動を充実させる。</p> <p>指標 令和7年度の授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする（ただし、事務局が定める学校行事等、ICT活用が適さない日数を除く）。 【R7:11.8%（12月現在）】</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教員の授業力を向上させるため、研究授業、相互参観、研修を充実させる。</p> <p>指標 令和7年度末の教職員アンケートにおける「研究授業、相互参観、研修を積極的にやっている」の項目について、肯定的に答える割合を50%以上にする。【R7:100%】</p>	A
<p>取組内容③【基本的な方向9 家庭・地域との連携・教働した教育の推進】 学校元気アップ地域本部事業による学習支援や図書館運営等の取り組みを充実させるとともに、学校の情報を積極的に発信し、地域や保護者の理解を得られるように努め、密接な協力関係を構築する。</p> <p>指標 毎月、「元気アップ便り」を発行し、毎日、学校ホームページを更新する。また、学年便り、学校だより、保健室便りを定期的に発行する。 令和7年度末の生徒アンケートにおける「読書は好きである」の項目について、「あてはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を70%以上にする。【R7:55.8%】</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析</p> <p>「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合は、昨年度より低い数値となった。年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合は、昨年度と同程度の数値である。教員の一人当たりの平均時間外勤務時間は、昨年度より4時間程度改善されている</p>	

ので、引き続き、校務の効率化、地域の人材の積極的活用を進めていく。

学習者用端末の利用は、その活用の研修やICT支援員のサポートもあり、確実に増加した。

年間一度以上の研究授業は、それぞれの教員の創意工夫で内容の濃いものが多々見られ、ICT機器の活用、一斉外の授業スタイルも多く見られる。11月中旬には、若手教員主催による研究授業を実施した。その際、講師であるスクールアドバイザーから次期学習指導要領を見据えた指導・助言をいただき、それを生かした授業展開を意識できるようになってきている。

「心の天気」活用については、飛躍的に向上した。命・いじめなど生徒の状況把握に不可欠であり、重要なアンテナツールとなるため、引き続き、積極的な活用を進めていく。

図書室の活用は、支援スタッフの皆様、生徒専門委員会の活動のおかげで、頻繁に利用する生徒もいる。貸出冊数などまだまだ利用価値は高いので、引き続き、啓発活動を進めていく。

地域の皆様には「元気アップだより」の発行や、サポートスタッフとして様々な分野で支援していただいた。引き続き、積極的にコミュニケーションを図りながら、チームの仲間意識を育てたい。

次年度への改善点

- ・部活動指導員の積極的活用などによる部活動指導の負担軽減に努める。
- ・スクールサポートスタッフの積極的活用による校務における事務的作業の負担軽減に努める。
- ・学習用端末などのICT機器を、授業や学習での積極的な活用に留まらず、学校・学年での活用、不登校生徒への学習支援ツールとして活用する。

項目評価シート

(1) 国語

取組内容（指標）	達成状況	
① 基本的な読み書きの力を養成する。	A	B
② 伝統的な文学に意欲を持って取り組めるように工夫する。	B	
③ デジタル教材を活用し、主体的・対話的な学びの実現に努める。	B	
④ 豊かな表現力を育成するために、読書・作文の指導を充実させる。	B	
結果と分析		
① 定期的に漢字テストを実施した。中学校の範囲だけでなく小学校の復習のため、小学校の範囲の漢字もテストを実施した。 ② 古典分野では歴史的仮名遣いの小テストを実施した。百人一首の暗唱をし、百人一首大会を実施して意欲的に古典の学習に取り組めるようにした。 ③ 夏休みの宿題では学習用端末を使って課題を提出した。小説教材などでは作品の歴史的背景など ICT 教材を用いてより深い理解に努めた。 ④ 単元ごとに感想文を書かせたり、1分間スピーチを実施し表現力を充実できるよう努めた。		
次年度への改善点		
学習用端末を使ったレポートの提出や話し合いなどを充実させていきたい。 ティームティーチングの有効利用を進めていきたい。		

(2) 社会

取組内容（指標）	達成状況	
① 教材研究や生徒との十分なコミュニケーションに努め、生徒が興味を持ち、生徒自身の「関心・意欲」を高めるような授業を展開する。	A	B
② 資料（史料）の内容を読み取らせ、自分の考えを文章にまとめる機会を設けることで、能力や思考・判断・表現力をつけさせる	B	
③ 問題集の活用や小テスト、長期休暇時の学習会などを開き知識を定着させる。 (指針：テスト前や長期休暇で学習会を各学年で年3回程度実施する。)	B	
④ ICT機器を効果的に活用し、授業内容の定着を目指す。 (指針：学期ごとに5回以上、学習者用端末を使用する。)	B	
結果と分析		
①外部講師を招いての授業を行い、生徒の関心や意欲を高める授業をすることができた。 ②資料を掲示しながら授業を実施することができたが、資料を読み取りその内容をまとめるなどの時間を各学年で多くとることができなかった。 ③3年生は受験に向けての学習会を実施した。1・2年生は学年末テストに向けての学習会や質問日を設定し生徒一人ひとりの学力向上を目指していく。 ④学習者用端末の更新後、積極的に学習者用端末を用いた授業を行うことができた。資料配布や調べ学習		

などを行い授業内容の定着を目指し今後も授業を行っていく。

次年度への改善点

- ①外部講師を招いての授業は実施時期などの検討が必要。次年度以降も税や選挙などの項目で外部講師を招いて授業を行っていく予定である。
- ②資料を用いながら授業を行うことができるように今後も教材研究を行っていく。
- ③学習会を開いたが参加者が少なかった。今後は小テストなどの結果から個別の対応が必要な生徒に声をかけ学習会を開いていく。また3年生は受験もあるため、質問日を設け個別に受験校の問題の解説などを行う時間を作り、学力の向上を目指していく。
- ④学習者用端末を有効活用できる教材を作っていく。問題集や教科書についているQRコードやデジタルドリルを使い、授業内容の定着を目指していく。

(3) 数学

取組内容（指標）		達成状況	
①	数式分野の理解を深めるために、反復練習を行い、基礎学力の定着に努める。	B	B
②	少人数授業やチームティーチングを実施し、個に応じた学力の伸長に努める。	B	
③	生徒が主体的に学習に取り組める教材を作成し、班活動等を通じて対話的な活動を通じて学力向上に努める。	B	
結果と分析			
<p>① 授業では、前回の復習を兼ねて確認テストや計算分野での小テストを行った。また家庭学習ではドリルやワークを用いて反復練習を行った。年度末に向けて引き続き確認を行い、より一層の基礎学力の定着に努めていく。</p> <p>② チームティーチングを中心に数学が苦手な生徒の声掛けを行っている。</p> <p>③ プリントやICT教材を用いて、生徒が自主的に問題に取り組むことができるように努めている。また数学が得意な生徒が苦手な生徒に教え合いができる環境をつくっている。</p>			
次年度への改善点			
<ul style="list-style-type: none"> ・次年度についても引き続き基礎学力の定着に努めていく。また、新1年生については小学校の計算分野が定着しているのかどうか、確認を行う必要がある。 ・少人数授業やチームティーチングについて、学年の様子を踏まえた上で実施の形態を検討していく。 ・QRコードを読み取るなど学習者用端末が利用できる場面が増えるため、授業の中で積極的に取り入れていく。 			

(4) 理科

取組内容 (指標)		達成状況	
①	基礎の定着をはかり、応用問題にも対応できるよう読解力を高める。	B	B
②	実験・観察学習などの体験的な学習を通して、探求心を高め科学的な思考を養う。	B	
③	視聴覚機器を活用した授業を行うことを創意工夫する。	B	
結果と分析			
<p>①小テストや基礎問題演習を定期的に行い、基礎の定着を行った。また、入試問題等を用いて応用的な問題にも取り組んだ。</p> <p>②各単元で一定回数の実験を行い、考察や日常生活との関連性から科学的な思考を養った。また、調べ学習を行うことで探求心を養う一旦となった。</p> <p>③校内で実験できないことなどを視聴覚機器を用いた授業を展開することができた。</p>			
次年度への改善点			
<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も引き続き、基礎の定着に向けて取り組み受験も念頭に応用的な問題にも取り組んでいく。 ・各学年と連携を取りながら年間を通して実験を行い、科学的な思考を養うような課題に取り組めるようにする。 ・教科書の QR コードを読み取るなど学習者用端末が利用できる所は、授業の中で積極的に取り入れていく。 			

(5) 音楽

取組内容 (指標)		達成状況	
①	プリントなどを使用して学習内容の要点を明確にし、基礎学力の定着を図る。	B	B
②	歌唱や器楽の表現や技術の向上を図る。	A	
③	ICT 機器を活用し「音の視覚化」で授業を展開し、生徒の興味関心への工夫を凝らす。また、ICT 機器の活用を行い、主体的・対話的な学びの実現に努める。	A	
結果と分析			
<p>①楽典の分野では授業の最初に復習を行い、1年生は三回目で小テストを行っているが、平均が50点程度であり、もう少し復習が必要と考える。2、3年生に関しては基礎的な分野は75%程とれている。再テストを行うなどして基礎学力の定着を図っている。</p> <p>②文化発表会での2年生の合唱では強弱だけではなく、言葉の意味や発音なども考え、話し合い歌唱につなげた。表現力の向上になったと考える。</p> <p>③デジタル教科書を主に用いて授業展開をするほか、生徒の発言を打ち込み、共有しやすくしている。また、端末を活用しての調べ学習を全学年3回以上行った。</p>			
次年度への改善点			

基礎学力の定着を図るために、授業内容の見直しをしていかななくてはならないと考える。それが、個人端末と関連させられるように工夫をしていきたい。また、個に応じた支援をどのようにしていくのかを見直す必要がある。

(6) 美術

取組内容（指標）		達成状況	
①	教科書・資料集の他に、ワークプリントなどを使い学習内容の要点を明確にし、生徒が主体的に学習する姿勢を養い、技術の向上を図る。対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	A	B
②	生徒が互いの作品の鑑賞活動を通して、相互に作用して対話的な学びから自己の考えや表現を深めさせる。造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	A	
③	ICT 機器を活用し、視覚化を通して思考を高め、より深い学びにつなげる。	B	
結果と分析			
<p>① 授業の始めに目当てを提示し、それぞれの単元で生徒が見通しを持って学習する姿勢がみられた。実技において要点を明確にし、個々の技能と発想力を活かすことができた。導入では使用する道具や教材の特徴や、どのように生活に関わるものかなど、教科の枠にとらわれず伝えることで、生徒の関心につながったと考える。生徒は小学校の図画工作で彫刻刀やカッターを使用しているが、使い方と管理の方法を徹底したことで大きな怪我もなく進めることができた。</p> <p>② 文化発表会では全学年の作品の展示をすることができた。生徒は他学年の作品の鑑賞を通して自己の考えや表現を深めることができたと考える。生徒が学校生活のなかで互いの作品を鑑賞できるように教室前に展示を行った。</p> <p>③ 各学年、作品の完成イメージや、表現したいものなど自身の発想をかたちにするため、昨年度よりPCを使用する機会が増えた。多くの生徒が、実技の内容以外でPCを使用し、自身の学習につながった。</p>			
次年度への改善点			
<p>生徒の個性が光るように、展示の機会や場所を見直すことで、自己の考えや表現の幅を広げたい。</p> <p>作品制作や提出物の管理など、個人端末を活かした工夫が必要であると考え。危険が伴う道具が必要な授業においては、生徒の実態に合わせて教材を精査し見直していきたい。</p> <p>PC活用が参考作品検索になることが多く、学習教材としての役割の幅を広げていきたい。</p>			

(7) 保健体育

取組内容（指標）		達成状況	
①	<p>【集団行動の充実】 集団行動やグループ活動を充実させ、規律ある態度と自ら学ぶ姿勢を育てる。</p> <p>（指標） 全国体力調査の中で保健体育の授業に進んで参加しているか。という</p>	A	B

	質問に対して男女合わせて、「いつも進んで参加している。」「大体進んで参加している」と答える生徒の割合を80%以上にする。		
②	【健康・体力の保持増進】運動の合理的な実践により、基礎体力の向上を図ると共に自発的に運動に親しむ習慣を育てる。 (指標) 新体力テストの結果で昨年度の自己記録を超える生徒の割合を80%以上にする。	A	
③	【言語力や論理的思考能力の育成】自分の課題に対して、班活動などを取り入れて、仲間同士で教えあいや学びあいの機会を作る。さらに、健康・安全に関する理解を通して思考力・判断力を育てる。 (指標) ICT や教科書などを活用し、実際に自分の理解を深めさせアドバイスを する機会を増やす。試験ごとにワークやプリントをチェックし確認する。	B	
結果と分析			
①	全国体力調査の中で保健体育の授業に進んで参加しているか。という質問に対して男女合わせて、「いつも進んで参加している。」「大体進んで参加している」と答える生徒の割合を80%以上にする。結果、男子96.8%、女子96.1%であり、苦手な生徒も前向きに取り組む意欲につなげることができた。		
②	新体力テストの結果で昨年度の自己記録を超える生徒の割合を80%以上にする。一年生に関しては、初めての測定であるが、2.3年生は80%以上の生徒が昨年の自分の記録を更新しているといえる。		
③	教科によってプリントやノートを活用し、保健分野はプロジェクターを使って指導している。しかし、個人のタブレットを使用して学びあう機会は少なくそうした機会を増やしていきたい。		
次年度への改善点			
①	運動が嫌いな生徒も多く二極化ではあるが、その学年も授業という中でとても意欲的に取り組む雰囲気があり、姿勢が成長に結びついている。		
②	新体力テストの結果は全体的に全国平均に並ぶ項目が多いといえるが、体格差の出やすい、握力と巧緻性をもとめるハンドボール投げの項目の向上ができるように取り組む。		
③	タブレットが新しくなり使いやすくなったので、マット運動やハードル走の競技によっては動作確認や分析の機会を作ることにより深い学びにつなげていきたい。		

(8) 技術・家庭

取組内容（指標）		達成状況	
①	グループワークや制作学習で他者と協働し、対話的な学びを深め、生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得させる。	B	B
②	現在及び将来を見据えて、生活や社会の中から課題を見出しその解決のために、学習を振り返り、評価・改善をして、新たな課題に主体的に取り組む姿勢を育てる。	B	
③	学習内容の理解度を深めるために ICT の有効活用を図る。	A	
結果と分析			
①制作時間に他者と協働作業をすることができた。教科担当からの指示を班で共有して生徒同士で学びを深めることができた。 ②自分の今を振り返ることはできるが、将来につなげるというところの発想が及ばない。 ③ICTを活用した授業をおこなうことができている。			
次年度への改善点			
テストの平均点を踏まえると学習内容の定着ができていない点が見受けられるため、授業内容の確認、指示の仕方、作業中の教科担当の動きなどを見直していく。ICTの使用は継続してできているので、内容を精査し、活用できるように研究を進める。 自分の今からの生活が将来につながることが認識できるような授業展開の研究が必要である。			

(9) 英語

取組内容（指標）		達成状況	
①	5技能を使用する言語活動を通じて、コミュニケーションを図る資質・能力を育成させるよう努める。	B	B
②	デジタル教材や C-Net を効果的に活用し、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う	B	
結果と分析			
① ペアやグループワークを通して、自身のことや意見交換をする会話や、一人一台端末を使い発表をすることを多くできた。また各学年の実態に応じてリスニング・リーディング教材を強化し、多様な問題に対応できるように教材を工夫した。 ② 毎時間デジタル教科書を使用している。C-NET には月 1 度の定期的なものだけではなく、通常の授業にも来ていただき、ライティング・スピーキングの指導ができ、積極的にコミュニケーションを図れている。			
次年度への改善点			
① 引き続き、ペアやグループワークを展開し、さらなる発表内容に取り組んでいきたい。 ② 生徒自身がデジタル教科書を使用する場面を作っていきたい。			

(10) 道徳

目 標： 正しい人権意識を身につけ、違いを認め合い、道徳性や思いやりの心を育てることに努める。

取組内容（指標）		達成状況	
①	内容項目を確認しながら、各学年で読み物資料を使用した授業を行い、授業を通じて豊かな心を育てる。	B	B
②	学年間で協議しながら、授業内容の充実に向けて取り組む。	B	
③	学級での集団作りや学年行事、学校行事の取り組みを通じて、人権尊重の精神を養う。	B	

結果と分析

- ①各学年道徳の時間の確保に努め、教科書を使用して計画に沿った授業を行うことができた。
- ②道徳・人権教育委員会では、各学年の進捗状況や授業内容を共有し、話し合うことができた。
特に、教科書改訂による新しい教材について、授業研究を行うなかで ICT の活用も含め生徒に応じた工夫がみられた。
- ③学級での仲間づくりや学校行事、学年行事の取り組みを通して、思いやりの心を育てることに努めた。

次年度への改善点

各学年とも道徳の授業時間を確保し、引き続き、生徒に応じた工夫をして教科書を活用した授業を行っていく。授業内容については、委員会の中で共有し評価も含めて検討してきたが、学年チーフの役割を生かし、さらに深化を図りたい。また、教科書改訂による新しい教材について、授業研究の成果を次の学年に残せるように、資料の保管と共有を進めていく。授業内容の充実に向けて相互参観の機会を増やし、他校の実践も参考にしながら、共有した内容を具体的に生かせるよう取り組みたい。

(11) 特別活動

目 標： 自律的生活態度を育成し、互いに尊重し合う集団づくりに努める。

取組内容（指標）		達成状況	
④	生徒会・専門委員会活動の活性化を図り、積極的に参加させる。	A	B
⑤	学校行事・学年行事の活性化を図り、積極的に参加させる。	A	
⑥	部活動の活性化を図り、積極的に参加させる。	B	

結果と分析

- ① 2 学期の生徒アンケートより、「委員・係当番の仕事は進んでしている」の項目について、あてはまる生徒の割合が 93.3%であったことから、自主性・主体性をもって取り組めた。
- ② 2 学期の生徒アンケートより、「体育大会、文化発表会、校外学習などの学校行事は楽しい」の項目について、あてはまる生徒の割合が 94.6%であったことから、生徒たちは前向きな気持ちで参加でき、取り組めた。
- ③ 2 学期の生徒アンケートより、「部活動に積極的に活動している」の項目について、あてはまる生徒の割合が 79.5%であったことから、昨年度より 1.8%上昇したものの部活動への意欲が若干低下してきている。

次年度への改善点

部活動については、積極的に参加することが活性化につながり、一定学校の落ち着いた状況にも影響していることから、部活動が活性化していくよう取り組む。

委員会活動や学校行事についても、与えられた責務については自覚をもって取り組んでいた。一方で、生徒会の立候補などに関して消極的なところもあり、大人から声かけによるものが見受けられる。そのため、2 学期の生徒アンケートで、「自分には良いところがあると思う」の項目について、あてはまる生徒の割合が 79.2%であったことから、「できる」という自信をもたせられるよう支援し、自己肯定感を高める活動を行っていく必要がある。

(12) 進路指導

目 標： 自己理解を深めさせるとともに、探求心を持って主体的に進路選択ができるための能力・態度を育てよう 3 年間を見通した指導に努める。

取組内容（指標）		達成状況	
①	発達段階に応じ、各学年に適した進路指導計画を立て、系統的・継続的に進路学習を実施する。	B	B
②	社会の一員としての在り方や職業観・勤労観を育成するために、地域社会や関係諸機関との連携を密にしたキャリア学習を系統的に行う。	B	
③	進路についての目的意識を高めるために、学校説明会や体験学習への参加の推進、進路説明会等による進路情報の提供、進路資料を活用した学級活動や進路相談を行う。	B	

結果と分析

- ① 第 1 学年では、令和 10 年度から変更される府立高校入試について、解説動画を視聴し進路選択に資する理解を深めた。また、実施を計画していたキャリア教育プログラムに関しては、公務や行事が重なり準備時間を十分に確保できず、実施できなかった。次年度は職場体験学習に向けた早期の計画立案と分担の明確化を図り、実施につなげたい。
第 2 学年ではコロナ前以降、本校では約 6 年ぶりに職場体験学習の実施が実現した。働くことの意義や責任を実感し、学校での学びと将来の進路とのつながりを具体的に考えられる有意義な機会となった。第 3 学年では、私立高校の出前授業を 1 学期に、面接講座を 2 学期末に行い、高校での学びや求められる姿を具体的に理解することで、進学後を見据えた進路意識や学習への意欲を高めることにつながった。
- ② ①のように地域社会や関係機関と連携しながらの取り組みを概ね実施することができ、生徒の進路意識の向上につなげることができた。

- ③ 生徒の進路に対する目的意識を高めるため、説明会等の情報を速やかに提供するとともに、本校でも『進路の手引き』を使った年 2 回保護者向けの進路説明会を開催した。また、進路に関する理解を深める取り組みとして、進路通信を年 9 回発行することができた。

次年度への改善点

次年度に向けては、外部機関との連携を早期から計画的に進めるとともに、各学年の取り組みを単発で終わらせるのではなく、年間計画の中に明確に位置づけることによって、地域社会や関係機関との連携をより密にし、継続的で系統的なキャリア教育の充実を図りたい。

(13) 生活指導の重点

目 標： 基本的な生活習慣の定着を図り、集団の規律を学ばせ、正しい判断のできる生徒の育成に努める。

取組内容（指標）	達成状況	
【規範意識の育成】 ① 集団生活のルールを守れる生徒を育成する。 時間を守れる生徒を育成する。	B	B
【基本的生活習慣の確立】 ② 挨拶のできる生徒を育成する。 正しい言葉使いのできる生徒を育成する。	A	
【家庭・地域との連携】 ③ 教育相談を充実させて、保護者との綿密な連携を行う。	A	
結果と分析		
① 2 学期の生徒アンケートより、「学校の規則をまもっていますか」の項目について、あてはまる生徒の割合が 98.0%であり、「チャイムが鳴ったら、すぐに授業が受けられるように準備している。」と答えた生徒は 85.9%であったことから、学校生活の習慣が一定定着した。		
② 2 学期の生徒アンケートより、「自分から進んであいさつしている」の項目について、あてはまる生徒の割合が 90.4%であり、「正しい言葉遣いや礼儀が身についている」と答えた生徒は 91.6%であることから、中学生としての社会性が一定身に付いた。		
③ いじめアンケートを年間 9 回、教育相談を年間 3 回取り組み、一人一台端末の「心の天気」「相談申告」を活用した結果、2 学期の生徒アンケートでは、「先生は親身になって相談にのってくれる」の項目について、あてはまる生徒の割合が 93.0%であり、一定生徒に寄り添った対応ができた。「不登校」「いじめ」「SNS」の問題に対しても取り組めた。		
次年度への改善点		

学校での基本的な生活習慣について確立している生徒は多くなってきているが、2学期の生徒アンケートより、「毎晩何時ごろ寝ていますか」の項目について、12時以降の生徒の割合が22.1%であり、また、「毎日どのぐらいゲームをしますか」の項目について、2時間以上の生徒の割合が40.8%、「毎日どのぐらい通話やメール、ネットをしますか」の項目について、2時間以上の生徒の割合が30.1%であったことから、家庭での生活習慣については改善が必要な生徒も多く、不登校へつながる恐れがある。また、通信機器を使用しているのいじめを含めトラブルが引き起こされる可能性がある。さらに家庭との連携を密にし、改善を図っていく必要がある。

(14) 保健管理・指導の重点

目 標： 食育や体力向上を通して健康的な生活習慣を身に付け、環境づくりと安全・美化に努める。

取組内容（指標）		達成状況	
①	【健康的な生活習慣Ⅰ】健康診断後の受診率を高める。（う歯・視力）	B	B
②	【健康的な生活習慣Ⅱ】保健だより等を通して体力向上や食に対する意識を高める。	B	
③	【現代的課題】生徒が主体的に校内美化に努め、環境問題について考えさせる。	B	
結果と分析			
<p>① 保健だよりや生徒保健委員活動を通じて、治療勧奨している。</p> <p>② 保健だよりや掲示物・文化発表会の展示、保健委員会の月間目標を通して、生徒の意識向上に努めている。</p> <p>③ 環境委員会を中心に中庭の花壇などの環境整備に努めている。また、環境に関するポスターを掲示することで校内の環境を意識することができている。校内菜園などに意欲的に参加するなど意識も向上している。</p>			
次年度への改善点			
<p>① 今後も保健だよりや学期末懇談会等を通して、さらに受診率を向上させる。</p> <p>② 引き続き健康的な生活習慣を身に付けられるように、保健だよりやポスター、保健委員会での月間目標などで啓発する。</p> <p>③ 環境委員会を主体とした活動を続け、校内環境の整備に努め、環境問題を考えるための一助となるような取り組みを計画していく。</p>			

(15) 教員の研修の重点

目 標： 教育活動への研究と修養に努める

取組内容（指標）		達成状況	
①	【授業研究】 教職員相互の授業研究・研修を促す。情報を共有し、指導力向上に役立てる。	B	B
②	【研修内容の確立】 新転任研修・新任研修・中堅研修・生徒情報交換・特別支援研修・校内共通確認事項の周知を基本とし、今後必要とする研修内容を調整する。	A	
③	【研修計画】 外部からの講師を依頼し研修の場を設けるよう日程調整する。生活指導・学級経営・ICT教育・特別支援教育・人権教育・平和教育等の修養となるよう努める。教職員	B	
④	【小中連携】 小学校教員と情報を共有し、同地域の連携を密にする。	B	
結果と分析			
本年度の研修を通して、教職員が自己の実践を振り返り、指導力向上への意識を高めることができた。一方で、研修内容や実践の成果を十分に共有するまでには至らず、相互に学び合う機会の充実が課題として挙げられる。			
次年度への改善点			
情報共有や教職員同士の研究授業、情報交換の機会を増やすとともに、外部講師を招いた研修を積極的に取り入れ、新たな視点や専門性を学ぶ場を充実させていきたい。			

(16) 特別支援教育の重点

目 標： 一人ひとりの実態を把握し、社会自立に向けた支援を個別に努める

取組内容（指標）		達成状況	
①	“できた”を増やし、自己肯定感を高める	A	B
②	情緒の安定を図り、適切な自己表現ができる力を育成する	A	
③	生徒一人ひとりの実態把握に努め、教職員全体で理解・共有する	B	
結果と分析			
① スモールステップではあるが、できることがたくさん増えている。一人でできていなかったことができるようになったり、声掛けをしなくても行動できている姿をたくさん見ることができた。			
② 特別支援学級を安心できる居場所にすることができており、情緒が不安定になった際に利用することができている。また、気持ちが落ち着かなくなった理由など自分の気持ちを伝えることができています。			
③ 生徒一人ひとりの実態把握に努め、学期に1回、教職員全体で情報共有を行っている。職員間で生徒に対しての情報を話し合いすることができている。			

次年度への改善点

- ① できるようになったことを継続できるようにサポートを続ける。次年度も障がいによる学習上・生活上の困難を改善・克服するために必要な知識を身につけられる活動を行っていく。
- ② 特別支援学級では安心して過ごせているが、学級での過ごし方や人間関係などの課題はたくさんある。色々な場面を想定し、ソーシャルスキルトレーニングを続けていく。
- ③ 生徒一人ひとりの支援目標や保護者・本人の願いを共有し、個々に合った支援を教職員全体で共有し、実践していく。

(17) 1年 努力目標

目 標： 自他を尊重し、何事にも意欲的に取り組む集団になる

取組内容（指標）		達成状況	
①	互いを思いやり、みんなが楽しく過ごせる学年作り	B	B
②	将来の目標のため、学力向上に励む学年作り	B	
③	行事、部活動に全力に取り組む学年作り	A	
結果と分析			
① 意図的ではなく配慮に欠けた言動で結果的に人を傷つけるということが見られた。 ② 学習に対する意欲に個人差がある。貪欲に知識を吸収しようとする生徒が多い中で、興味のないことはやらないという生徒が一部見られた。 ③ 一泊移住でのレクレーション大会や、文化発表会の取り組みなど行事に関しては集中して一生懸命取り組んでいる。自分ができることを自主的に見つけ取り組んでいる			
次年度への改善点			
① 違いを認めお互い理解し合い支え合う集団にしていきたい。いろいろな立場を考える機会を増やす必要がある。 ② 学習の大切さと、学ぶ喜びを感じられるように指導を工夫していきたい。 ③ 一生懸命行事に取り組む姿勢は継続していきたい。			

(17) 2年 努力目標

目 標： 一人一人の個性を尊重し、失敗を恐れず挑戦できる生徒の育成

取組内容（指標）		達成状況	
④	マナーやルールを守ろうとする生徒の育成。	A	A
⑤	自主的・積極的に取り組む生徒の育成。	A	
⑥	他者を思いやれる生徒の育成。	B	
結果と分析			

学年教員の細やかな指導で、生徒たちが安心・安全に学校生活を送ることができた。また、たくさんの学年行事を準備の段階から、上記の3項目を遵守しながら実施し、生徒たちが新3年生に向けて成長できたことも大きな成果であった。

次年度への改善点

新3年生では、1・2年生で指導してきた3項目を当たり前に実践できるように指導を継続する。また、進路選択、そして、卒業に向けて、自立につながるように学年教員団で取り組んでいく。

(19) 3年 努力目標

目 標： 基本的な生活習慣を身につけさせるとともに、自主性を高め協力する心を育成する。

取組内容（指標）		達成状況	
①	マナーやルールを守ろうとする生徒を育成する。	B	A
②	自ら学ぼうとする生徒を育成する。	A	
③	他者を思いやれる生徒を育てる。	A	
結果と分析			
<p>①入学当初は、個別対応に費やす時間が多く、生徒間トラブルも絶えなかったが、学校規則を遵守して、学校生活を落ち着いて過ごすことができてきた。課題については継続して指導し続けている。例外生徒においては、個別対応を行い、生徒、保護者への理解を得るよう話し合いを継続した。</p> <p>②学習に対する意欲が課題であったが、進路選択を自ら意識していく過程で、学習に対して学ぼうとする姿勢に積極性がでてきた。修学旅行では、生徒たちがルールを作成して遂行し、全体レクレーションでは、生徒が主体となって運営ができた。文化発表会舞台発表では、決められた台本から、生徒同士が話し合い、より良い作品をつくることができた。作品作成も生徒のイメージから完成まで自主的に取り組むことができた。</p> <p>③生徒同士が互いに優しさを持ち支えあって接している。違いを認め、違いを理解し合える集団になりつつある。</p>			
次年度への改善点			
<p>①卒業後の生活で自律できるように指導をつづける。</p> <p>②生涯、学習を続け向上心を失わないように指導をつづける。</p> <p>③地域でお互いに助け合う気持ちを忘れないよう指導をつづける。</p>			